

まじかぜそう科



第 3486 図

こへんるうだ

Ruta chalepensis L. var. bracteosa
Halácsy (=R. bracteosa DC.)

欧洲南部原産の多年生草本、香料料として稀に栽植される古渡の植物である。茎は比較的太く、多肉で直立し、高さ30cm許、下部は木化して硬く、全株に強い臭気或は香気がある。葉はやや密に互生し、全体蒼白緑色、軟質で、下葉は長柄を有し、1-2回羽状複葉、下方の小葉は有柄で屢々更に側片を分ち裂片は筐形をなし、上葉は短柄又は無柄で漸次苞葉に変わる。初夏、茎頂に疎な聚繖花序をなして淡黄色の花を開く。花弁は4又は5個、舟形をなし、縁辺の毛状細裂が著しい。雄蕊は8又は10個、花弁に互生する4-5個は花弁より少しく長く、対生するものはやや短く、中央に1雌蕊があり、子房下に黄緑色の花盤がある。蒴果は4-5裂し、微小な種子を出す。

こからずざんしょう

Zanthoxylum Fauriei Ohwi
(=Fagara shikokiana Makino)

本州(東海道、近畿地方)、四国、九州、南鮮等暖地の山地に稀に生ずる落葉喬木。小枝は稍太く、幼時は赤色を呈し、鋭刺がある。葉は無毛で15-29個の小葉からなり、長さ15-30cm、葉柄は長さ3cm、小葉は卵状披針形、長さ3.5-8cm、漸尖頭で微凹端、葉縁に低鈍鋸歯を有し、下面やや白く、全面に腺点を散布する。夏日枝端に短かい聚繖花序を頂生して、多数の白緑色小花を密に開く。萼片は通常3-5裂して微細、花弁も3-5個。雌雄異株で、雄花には雄蕊3-5個を有し、子房は退化する。雌花には雄蕊退化し、通常3心皮を有する1雌蕊がある。

いちげふうろ

Geranium sibiricum L.

本州北部以北に産する多年生草本である。長いゴボウ状の主根があり、それから細い根を出す。全体はゲンノショウコに似て、茎及び葉柄には逆向した毛があるが、立毛及び腺毛は無い。葉は掌状に5深裂し、裂片は長菱形で尖り、欠刻状の尖った鋸歯があり、両面毛があり、茎上部の葉は3深裂する。夏、葉腋に花梗を出し、通常1花をつける。花は径1cm内外、淡紅色又は白色、萼片は長さ4-6mmで3脈がある。花後小花梗は基部から屈曲して傾下し、先に上へ向いた長さ1.3-2cmの蒴をつける。国外では支那、シベリア、欧洲東部などに分布し、雑草として路傍草地に多い。和名は一華風露の意で、1花梗に1花をつけることによる。

まじかぜそう科



第 3487 図

ふうろそう科



ひつちゅうふうろ

一名きびふうろ

Geranium Yoshinoi Makino

主に中国地方の山地に生ずる多年生草本である。茎は高さ30-40cmで細く、逆向した伏毛を散生し下部は殆ど無毛。葉は質うすく、1/4-3/4まで5裂し、裂片は倒卵状菱形で互に離れ上部3裂して1-2の短い鋸歯があり、上面及び下面脈上に細毛を散生する。托葉は長さ3-5mmでやや葉質、往々合着し卵形鋭頭である。夏、細長い花梗上に2花をつける。萼片は長さ7mm内外、5-7脈、微細な伏毛がある。花は径1.5-2.5cm、花弁は淡紅紫色で濃色の脈を有し、下部に立った長い毛がある。花後小花梗は斜めに開き、蒴体は長さ1.5-2cmで微細な毛があり、頂に5花柱をつける。和名は備中風露の意で、初め備中国で発見された。

あさまふうろ

Geranium soboliferum Komarov

本州中部の湿った山地草原に稀に生ずる多年生草本。根茎は短く肥厚し太い根を簇出す。茎及び葉柄は逆向した伏毛のみがあり、下部は無毛となる。アカマフウロに似るが葉は更に細く深く裂け、歯片は披針形で鋭頭、質はやや硬く、上面及び下面脈上に短毛がある。托葉は合着して三角状長卵形となり、やや葉質で長さ4-11mm。花梗は細長く2花をつけ、短い伏毛を有し、花後も概ね直立している。8-9月、濃紫紅色大形の花を開き、花は径2.5-3.8cm、萼片は長さ7-8mmで5-7脈、先端に長さ1-2mmの刺がある。花弁は基部の縁辺に白鬚毛を密生し、下部脈上に長軟毛がある。和名は浅間風露の意味で信濃浅間山麓に多く生ずることによる。

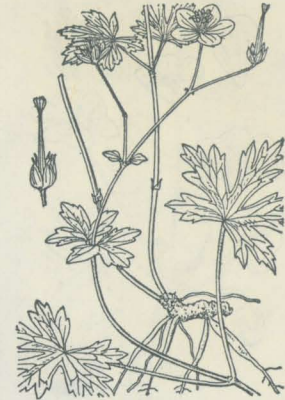
いぶきふうろ

一名ふうろそう(風露草)

Geranium yesoense Franch. et Sav.

本州中部の山地及び北海道の草地に生ずる多年生草本。茎及び葉柄には斜に下向した粗毛がある。葉は掌状にかなり深く5-7深裂し、裂片には深い欠刻と鋸歯があり、両面に粗毛が多い。托葉は離生又は合生で長さ5-10mm、質うすく褐色である。花梗は細長く2花をつけ、白色の粗毛を密生し、果時に小花梗は傾下する。花は径2.5-4cmで紫紅色、萼片には長い立った白粗毛が多い。花弁は下部脈上及び縁辺に白毛がある。和名は伊吹風露の意味で、近江伊吹山に産するのによる。弁頭が3浅裂したものを特にイブキフウロと呼ぶことがあるが、伊吹山でも全辺弁のものが普通で、3裂弁のものは少く、一の変り品にすぎない。

ふうろそう科



第 3489 図

ふうろそう科



第 3490 図

ふうろそう科

